

池崎 澄江
慶應義塾大学 医学部 医療政策・管理学教室 助手

介護施設における入院の実態とその関連要因の分析

本研究では都内某区の特別養護老人ホーム3施設を対象として、郵送調査および追加インタビュー調査を行った。施設長および看護責任者に調査票記入を依頼するとともに、期間内に入院となった入所者については個人情報の保護に十分に留意したうえで、属性や主傷病、ADL等について尋ねた。その結果、3施設とも基準以上の看護師配置を行っているものの、入所者の医療ニーズに十分に対応していないと評価していた。入院件数は、看護師配置や医師の常勤とは関連がみられなかった。入院事例42例の分析では、2割は搬送に至る判断に医師が関わっていなかった。主傷病は半数が肺炎で、特別養護老人ホームに戻った者は、入院前と比べて有意にADLが低下しており($p < 0.05$)、入院中のケアで留意するべきと考えられた。現在の看護師配置では、日中の医療処置にくわえ、オンコールによる夜間対応は過重な負担といえ、緊急対応ケアは、終末期ケアと関連した事前意思のあり方も含め、地域で連携した取り組みが必要と考えられた。